

問題・解答 用紙番号	40
---------------	----

の解答用紙に解答しなさい。

## 世 界 史

〈受験学部・学科〉

**3科目型 受験者** **3科目型と2科目型の併願受験者**

法学部, 国際学部, 経済学部, 経営学部, 現代社会学部,  
農学部【文系型】(食品栄養学科・食農ビジネス学科)

問題は100点満点で作成しています。

**I** 次の文を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

13世紀初め、大モンゴル国をたてたチンギス=ハンは、配下の遊牧民を (1) 制のもとに組織し、これを自身と弟たち、息子たちで率いた。彼はカラ=キタイをのりつたナイマンを倒し、さらに (2) 朝を倒し、西夏を滅ぼした。チンギス=ハンの死後、(3) は金を滅ぼして華北を領有し、カラコルムに都を築いた。また、バトゥに西征(ヨーロッパ遠征)を命じ、バトゥは A 国をたてた。一方、フレグ(フラグ)はアッバース朝を滅ぼして B 国をたてた。さらに、華北に拠点をおいたクビライ(フビライ)は、南宋を滅ぼし、中国全土を支配した。こうして13世紀の後半には、ユーラシア大陸の過半を支配する大帝國が出現した。

モンゴル高原から華北・チベット・<sup>(a)</sup>雲南・朝鮮半島におよぶ地域を勢力基盤としたクビライは、大都に都をおき、国号を中国風に元と定めた。元は塩の専売を実施したほか、取引税などによって莫大な銀を集め、その補助として交鈔と呼ばれる紙幣を広く流通させた。また、<sup>(b)</sup>杭州・泉州・広州などが海上貿易で繁栄し、交通や物流は海運や大運河によって華北や内陸部とも結ばれた。

モンゴル帝国における陸と海の交易を担ったのはおもにムスリム商人であった。イスラーム諸国から東方にもたらされた技術・学術の影響は大きく、(4) はイスラーム天文学の知識に基づいて授時暦をつくった。また、モンゴル帝国の急激な拡大は西方でも大きな関心呼び、<sup>(c)</sup>ローマ教皇やフランス王ルイ9世はモンゴルに使者をおくった。

しかし、14世紀には自然災害や疫病が流行し、モンゴル帝国は急速に衰えた。中国では、14世

紀半ばに白蓮教徒が (5) の乱をおこし、元は1368年に明軍に大都を奪われて、モンゴル高原に退いた。また A 国は14世紀末にティムールの攻撃をうけて弱体化し、15世紀に入ると分裂した。

問1. 空欄 (1) ~ (5) に入るもっとも適切な語句を以下の語群から選べ。

- 〔語群〕 ア アイユーブ      イ 安史      ウ 衛所      エ オゴデイ(オゴタイ)  
 オ カイドウ(ハイドゥ)      カ 郭守敬      キ カラ=ハン      ク 顔真卿  
 ケ グユク      コ 紅巾      コ 黄巢      シ 蔡倫      ス 徐光啓  
 セ 千戸      ソ パガン      タ 八旗      チ 募兵      ツ ホラズム=シャー  
 テ モンケ      ト 李自成

問2. 空欄 A , B に入る国名と地図中の位置①~③の組み合わせとして、正しいものをア~カからそれぞれ一つ選べ。

- ア 国名：イル=ハン      位置：①      イ 国名：イル=ハン      位置：②  
 ウ 国名：キプチャク=ハン      位置：①      エ 国名：キプチャク=ハン      位置：③  
 オ 国名：チャガタイ=ハン      位置：②      カ 国名：チャガタイ=ハン      位置：③



問3. 下線部(a)~(c)について、以下の問いに答えよ。

(a) クビライが滅ぼした雲南の国として、正しいものを一つ選べ。

- ㊦ 大越      ㊧ 大理      ㊨ 吐蕃      ㊩ 南詔

(b) 杭州に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㊦ 清末にロシア、次いで日本が租借した。  
㊧ 南宋の時代に、臨安の名で都となった。  
㊨ 元の冬の都の大都に対し、夏の都として建設された。  
㊩ 唐の時代にはじめて市舶司がおかれ、交易拠点として繁栄した。

(c) ローマ教皇がモンゴルにおくった使者の組み合わせとして、正しいものを㊦~㊩から一つ選べ。

- I プラノ=カルピニ                      II マルコ=ポーロ  
III モンテ=コルヴィノ                  IV ルブルック

- ㊦ I・III      ㊧ I・IV      ㊨ II・III      ㊩ II・IV

Ⅱ 次の文を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

ヨーロッパの国際秩序に関して協議するため、1814年から翌年にかけてウィーンで国際会議が開催された。この会議の結果、フランスでは王政が復活するなど、<sup>(a)</sup>フランス革命前の体制に戻る地域もあったが、新たにドイツ連邦が成立するなどの変化もあった。この会議で成立した国際秩序はウィーン体制と呼ばれたが、この後も革命や独立運動が勃発し、各地の情勢は安定しなかった。1820年代に<sup>(b)</sup>オスマン帝国内の (1) で独立運動が激化し、1830年のロンドン会議で (1) は国際的に独立を承認された。1831年には<sup>(c)</sup>マツィーニが亡命先のマルセイユで「青年イタリア」を結成した。フランスでは1824年に (2) が即位したが、1830年に七月革命がおき、亡命した。つづいて、新しい王のもとで王政が開始されたが、1848年2月にパリで革命がおき、王政が倒れ、共和政の臨時政府が樹立された。その後、1852年に国民投票で皇帝となった (3) による帝政が始まった。

1848年はパリでの革命を皮切りに、ヨーロッパ各地で自由主義的改革運動と独立・自治を求める<sup>(d)</sup>ナショナリズムが高揚した年であった。プロイセン王国では同年3月に革命がおき、王が譲歩して自由主義者の内閣が誕生した。同年5月にはドイツ諸邦の代表者が集まって統一国家と憲法制定のために (4) 国民議会を開いた。1866年、プロイセン=オーストリア戦争によってプロイセンが勝利し、ドイツ連邦は解体され、翌年プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦が結成されて、南ドイツ諸邦とも同盟を結んだ。1870年にドイツ=フランス戦争（プロイセン=フランス戦争）が始まると、北ドイツ連邦と南ドイツ諸邦の支持を得たプロイセンはフランスを圧倒した。1871年1月、プロイセン国王 (5) はヴェルサイユ宮殿でドイツ諸侯によってドイツ皇帝に推挙され、<sup>(e)</sup>ドイツ帝国が成立した。

問1. 空欄 (1) ~ (5) に入るもっとも適切な語句を以下の語群から選べ。

- 〔語群〕 ㊦ ヴィルヘルム1世      ㊩ カール4世      ㊭ カール5世  
㊧ ギリシア      ㊯ シャルル10世      ㊫ スイス      ㊥ ナポレオン1世  
㊨ ナポレオン3世      ㊪ ハインリヒ4世      ㊮ ハーグ  
㊰ ハンガリー      ㊳ フランクフルト      ㊲ フランソワ1世  
㊴ フリードリヒ2世      ㊶ ベルギー      ㊸ ベルリン      ㊱ ミュンヘン  
㊷ ヨーゼフ2世      ㊴ ルイ18世      ㊰ ルイ=フィリップ

問2. 下線部(a)~(e)について、以下の問いに答えよ。

(a) フランス革命に関わる出来事について述べた文Ⅰ~Ⅳについて、古いものから年代順に配列したものを、㉑~㉕から一つ選べ。

Ⅰ バスティーユ牢獄が襲撃された。

Ⅱ ルイ16世はおよそ170年ぶりに全国三部会を召集した。

Ⅲ 徴兵制が導入された。

Ⅳ 国王一家が亡命をこころみだが、つれ戻される事件がおきた。

㉑ I→II→III→IV      ㉒ I→II→IV→III

㉓ II→I→III→IV      ㉔ II→I→IV→III

(b) オスマン帝国に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

㉑ バヤジット1世の指揮のもと、ビザンツ帝国を滅ぼした。

㉒ セリム1世の時代に、イスラーム教の聖都メッカ・メディナの保護権を獲得した。

㉓ レパントの海戦でスペイン王フェリペ2世を破った。

㉔ チャルディランの戦いで火器を装備したサファヴィー朝に敗れた。

(c) マツイーニに関する説明として、正しいものを一つ選べ。

㉑ ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世によって首相に任命された。

㉒ 共和政をめざして成立したローマ共和国に参加した。

㉓ 『リヴァイアサン』を著して国家主権の絶対性を主張した。

㉔ 義勇軍を率いて両シチリア王国を占領した。

(d) ヨーロッパのナショナリズムに関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

㉑ ロシア皇帝アレクサンドル2世の改革に乗じて、ポーランドの民族主義者が蜂起した。

㉒ アイルランドではシン=フェイン党が結成され、独立運動を主導した。

㉓ ハンガリーではコシュート(コッシュュート)らの率いる民族運動がおきた。

㉔ 19世紀にデンマーク領となったノルウェーは、激しく抵抗して20世紀に独立した。

(e) ドイツ帝国の初代宰相(首相)について、人名A・Bと政策Ⅰ・Ⅱの組み合わせとして、正しいものを㉑~㉕から一つ選べ。

人名

A ビスマルク

B ヒンデンブルク

政策

Ⅰ 「世界政策」をかかげて帝国主義政策を追求し、バグダード鉄道の敷設権を獲得して中東への進出をはかった。

Ⅱ 国民統合をすすめるため、南ドイツに多いカトリック勢力を警戒して抑圧した。

㉑ A—Ⅰ      ㉒ A—Ⅱ      ㉓ B—Ⅰ      ㉔ B—Ⅱ

Ⅲ 経済史に関する次の文章(1)～(5)には、下線部が正しいものと正しくないものがある。正しいものについては⑦を、正しくないものについては①～⑥からもっとも適切なものを選び。 (40点)

(1) 地中海東岸のシリア・パレスチナ地域では、前12世紀頃からセム語系の民族の活動が活発になった。なかでもフェニキア人はシドンやティルス(テュロス)などの港市国家を拠点に地中海の商業交易で繁栄し、北アフリカに建設した植民市のメンフィスは、金・銀・錫・銅の交易を独占し、めざましく発展した。

① クノッソス      ② カルタゴ      ③ ダマスクス      ④ テーベ

(2) 北アメリカのメキシコ高原から中央アメリカにかけてのメソアメリカでは、前2千年紀頃から乾燥に強いトウモロコシを栽培する独自の農耕文化が生まれた。他方、南アメリカのアンデス地域ではトウモロコシに加えてオリーブも栽培する農耕文化が発展した。両地域では、これらの農耕定住社会を基礎として先住民文明が栄えた。

① 米      ② タロイモ      ③ ジャガイモ      ④ 小麦

(3) 中央ユーラシアでは6世紀半ばから9世紀前半にかけてトルコ系の突厥やウイグルが遊牧国家をたてた。これらの勢力のもとで、イラン系の鮮卑はサマルカンドなどのオアシス都市に居住しながら、東西交易の中継商人として隊商交易を発達させ、中央ユーラシア一帯におよぶ通商ネットワークをつくりあげた。

① ソグド人      ② スキタイ      ③ アラム人      ④ ヒッタイト(人)

(4) 南インドでは10～11世紀にかけてサータヴァーハナ朝が有力となった。灌漑によって安定した農業生産を実現する一方で、スリランカやマラッカ海峡にも支配を広げ、インド洋東部の海上交易の覇権をにぎった。また中国の北宋に商人使節を派遣し、海上交易のさらなる発展をめざした。

① チョーラ      ② グプタ      ③ マウリヤ      ④ クシャーナ

(5) アッバース朝の第2代カリフのマンスールはバグダードを建設した。バグダードは国際交易の中心都市として繁栄し、第5代カリフのサラーフ=アッディーン(サラディン)の時代に最盛期をむかえた。

① イブン=ハルドゥーン      ② ハールーン=アッラシード  
③ アブー=バクル      ④ ムアーウィヤ

(6) 西アフリカでは、4世紀頃にラクダを利用したサハラ砂漠縦断の交易路が発展した。この交易ではおもにサハラ産のサトウキビと西アフリカの金や象牙、奴隷が取引された。こうした交易を基盤に、西アフリカでは8世紀以前からガーナ王国が栄え、13世紀～16世紀後半にかけてマリ王国とソンガイ王国がトンブクトゥを拠点に交易を管理し、イスラーム世界に大量の金を供給した。

- ① 毛織物      ㉔ 香辛料      ㉕ ガラス器      ㉖ 岩塩

(7) エジプトでは、1250年に樹立されたマムルーク朝のもとでナイル川の治水管理がすすみ、農業生産力が向上した。首都のカイロは商業・手工業の中心として栄えた。またカイロを拠点とするカーリミー商人が紅海とインド洋の香辛料交易を独占し、カイロはイスラーム世界の内外を結ぶ国際交易の中心となった。

- ① ファーティマ      ㉔ 後ウマイヤ      ㉕ ナスル      ㉖ ムワッヒド

(8) 11～13世紀の西ヨーロッパでは、農業生産が増大し、人口も飛躍的に増加した。これにより余剰生産物の交換が活発になり、貨幣経済が浸透したこともあいまって、遠隔地商業圏として地中海交易圏（商業圏）と北海・バルト海交易圏（北ヨーロッパ商業圏）が発達した。地中海ではヴェネツィアやリユーベックなどの北イタリアの港市が中心となって、銀や毛織物などと引きかえに、東方貿易（レヴァント貿易）によって香辛料・絹織物・陶磁器などの奢侈品が輸入された。

- ① ブリュージュ      ㉔ ジェノヴァ      ㉕ ナポリ      ㉖ ブレーメン

(9) オランダは1571年にマニラを占領し、フィリピンを植民地化した。マニラにはガレオン船によってアメリカ大陸の銀がもたらされ、中国商人がもたらす生糸や陶磁器、南アジア産の綿布などがマニラ経由でアメリカ大陸に運ばれた。

- ① イギリス      ㉔ スペイン      ㉕ ポルトガル      ㉖ オスマン帝国

(10) イランで栄えたサファヴィー朝では、アッバース1世がイスファハーンを首都とし、庭園や彩色タイルのモスクなどで首都をかざった。首都にはインドやヨーロッパから商人が訪れ、オランダやイギリスの東インド会社の商館がおかれた。

- ① ダマスクス      ㉔ タブリーズ      ㉕ モンバサ      ㉖ イスタンブール

(11) 18世紀に経済思想は国家が商工業を規制する重商主義政策から自由主義へと転換した。フランスでは富の源泉が農業生産にあるとして、穀物取引の自由化を主張する重農主義があらわれた。イギリスではケネーが富の源泉を労働に求め、『諸国民の富（国富論）』で分業と交換に基づく自由放任（レッセ=フェール）と自由貿易を説き、古典派経済学を創始した。

- ① ルソー      ㊦ テュルゴ      ㊥ アダム=スミス      ㊧ ホッブズ

(12) イギリスの綿織物業から始まった産業革命は、機械工業や製鉄業の発展をうながし、原料や製品の大量輸送が必要になった。1825年にクロントンが蒸気機関車を実用化すると、イギリスでは鉄道建設が急速にすすんだ。海上輸送の面では、1807年にアメリカ合衆国のフルトンにより開発された蒸気船がその後改良され、19世紀半ばから海上交通を大きく発展させた。こうした鉄道や蒸気船の発達により、世界各地の結びつきが緊密になった。

- ① カートライト      ㊦ ステイーヴンソン  
⑤ ジョン=ケイ      ㊧ ホイットニー

(13) 自由な経済活動を基盤とする産業資本主義の発展は、裕福なブルジョワ階層と貧困な労働者階層の格差をうみ出した。これに対して労働組合の運動や社会主義思想がうまれた。イギリスでは19世紀半ばに、労働者が男性普通選挙など6か条の人民憲章をかかげてアナーキズム（無政府主義）運動を展開した。またイギリスではオーウェン、フランスではサン=シモンやフーリエなどの社会主義の思想家があらわれた。

- ① ラ(ッ)ダイト      ㊦ ブルシェンシャフト  
⑤ チャーティスト      ㊧ ナロードニキ

(14) アメリカ合衆国では自由貿易と奴隷制の存続を主張する南部と、保護関税政策と国内市場の統一を主張する北部とのあいだの対立が深まった。1860年の大統領選挙で北部の民主党のリンカンが勝利すると、翌年に南部諸州がアメリカ連合国（南部連合）を結成し、南北戦争が勃発した。リンカンはホームステッド法（自営農地法）によって西部農民の支持を固め、1863年には奴隷解放宣言を発表して、国際世論を味方につけた。

- ① 労働党      ㊦ 自由党      ㊥ 保守党      ㊧ 共和党

(15) オスマン帝国領内では、19世紀に入ると、民族の自立の動きが高まるとともに、列強の干渉と経済的な支配が強まった。産業革命をすすめる列強にとって、オスマン帝国は重要な市場であったため、イギリスはオスマン帝国とその属州エジプトとのあいだの停戦を仲介し、その見返りとして1838年にオスマン帝国と通商条約を結んだ。この条約は16世紀後半以来、オスマン帝国がヨーロッパ商人に対して与えたカピチュレーションと呼ばれる通商特権を拡大したものであった。

- ① イェニチェリ      ㉗ ジズヤ      ㉘ タンジマート      ㉙ ハラージュ

(16) イギリス東インド会社は19世紀半ばにインド全域を支配下に入れた。そのインド植民地統治の目的は多くの富を効率よく徴収することにおかれ、地税を安定的に確保するための徴税制度が導入された。おもな徴税制度として、ベンガル管区では政府と農民のあいだに立つ領主層に納税させるプロノイア制が、マドラス・ボンベイ両管区では自作農を直接的な納税者とするライヤットワーリー(ライヤトワーリー)制がそれぞれ導入された。

- ① テマ      ㉗ ザミ(ー)ンダーリー      ㉘ 地丁銀      ㉙ マンサブダール

(17) メキシコでは1877年に大統領に就任したバティスタの長期独裁体制のもと、豊富な鉱物資源と外国資本の導入による経済成長がはかられたが、主要産業は外国資本の支配下におかれ、多くの農民が土地を奪われるなど経済格差が強まった。その結果、1911年に自由主義者のマデロが指導する蜂起が始まり、長期独裁体制は崩壊した。

- ① カストロ      ㉗ サパタ      ㉘ ファレス      ㉙ ディアス

(18) 1973年にエジプト・シリアとイスラエルのあいだで第3次中東戦争が勃発すると、石油輸出国機構(OPEC)は、イスラエルを支援する西側諸国に圧力をかけるため、原油価格を引きあげた。アラブ石油輸出国機構(OAPEC)も、イスラエル支援国に対する原油輸出を禁止した。こうしたアラブ諸国の石油戦略の結果、西側諸国では第1次石油危機(オイル=ショック)がおこった。

- ① 第2次中東戦争(スエズ戦争)      ㉗ 第4次中東戦争  
② 「アラブの春」      ㉘ 湾岸戦争

(19) 20世紀後半に社会主義国である中国やベトナムで市場経済の導入がおこなわれた。中国は1978年から鄧小平の主導のもとで市場経済の導入をすすめ、人民公社の解体や外国資本・技術の導入をおこなった。ベトナムは1986年にドイモイと呼ばれる刷新政策を実施し、共産党一党体制を堅持したままで企業の自主権拡大や対外経済開放などの市場経済への移行をすすめた。

㉠ ペレストロイカ      ㉡ 「四つの現代化」

㉢ アパルトヘイト      ㉣ 「大躍進」

(20) ヨーロッパでは1967年に域内関税を撤廃し、域外に対して共通関税を設定するヨーロッパ共同体(EC)が発足し、主権国家の枠を超えた西欧統合の基礎がつくられた。さらに、1992年には通貨統合、共通市民権、共通外交・安全保障政策を追求する方針をうち出した西ヨーロッパ 連合条約が調印され、翌年にヨーロッパ連合(EU)がうまれた。

㉠ ロカルノ      ㉡ ユトレヒト      ㉢ 九カ国      ㉣ マーストリヒト